

第30号

令和6年3月発行
関市子ども会育成協議会
【事務局】
関市若草通2丁目1番地
関市生涯学習課内
TEL0575-23-7777

わかさ

題字：上田 清四

縄文土器づくり体験

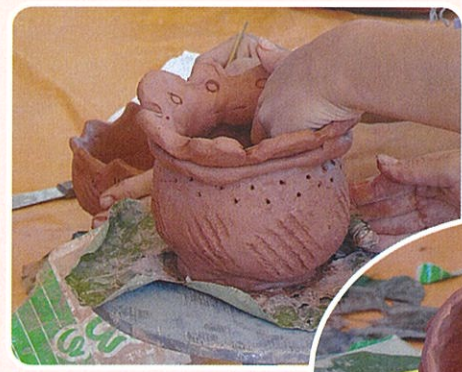
塚原遺跡公園

▼土器焼き 12/9(土)



焼きは、焚火の周りに土器を並べて、じっくり焼き上げる縄文時代の方法で行いました。

▼土器づくり 10/22(日)



すぐ出来る子もいれば、時間いっぱい考えながら作る子も。



研修会

▼関ジュニアリーダーズクラブ

秋の研修会 11/5(日) 安桜小体育館

▼関市インリーダー研修会 6/10(土)～11(日)



中池自然の家

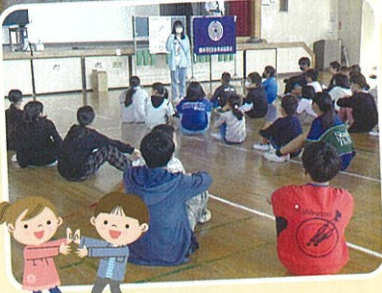
4年ぶりに1泊2日で開催し、オリエンテーリングや、野外炊事をしました。



美味しそう!



市内の小学校4～6年生と白鳥JLCのメンバーも加わって楽しい時間を過ごしました。



関ジュニアリーダーズクラブ募集



一緒に活動しませんか!!

ここでもレク練習!



毎月1回開催の例会から



インリーダー研修会に向けて
春のジュニア研修会の活動



関JLC秋の研修会 小学生も白鳥JLCと一緒に

令和5年度 関市子ども会に寄せて

会長 足立 雅彦

保護者の皆さま、地域の皆さま、関市子ども会育成協議会の活動にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、育成協議会ならびに各子ども会の役員におかれましては、子ども会の先頭に立って活動頂いていることに大変感謝しております。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法第5類に移行したことに伴い、さまざまな行動制限・自粛も撤廃され、人々の日常もコロナ禍前の生活を取り戻してきました。育成協議会の活動においても今年度は、コロナ禍前の活動ができるよう取り組んで参りました。

昨年6月に関市中池自然の家にて開催した「関市インリーダー研修会」では、4年ぶりに宿泊(1泊2日)にて実施しました。公園内のオリエンテーリングや野外炊飯(カレーライス作り)などを通し、子ども会の中心となって活動するために必要な積極性や自発性を養う場となりました。11月の「関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会」では、郡上市白鳥のジュニアリーダーも参加し、学校・地域を越えた子どもたちの交流の場を持つことができました。10・12月に塚原遺跡公園にて実施した「縄文土器づくり体験」では、多くの児童・保護者に参加頂き、地域の歴史に触れ、親子で創作に親しむ場となりました。

また、全国、東海北陸、岐阜県の各ブロック別の子ども会の大会も4年ぶりに揃って開催され、役員を派遣いたしました。各地域の代表者の先進的な取り組みを拝聴し、他の参加者と意見交換を行った結果を関市での活動に還元したいと考えております。

3年近くにわたる感染症予防のための行動制限・自粛によって、子ども会の活動も大きな空白が生じました。各子ども会の皆さまにおかれましても、この一年はコロナ禍前の活動を取り戻すことに多くのエネルギーを費やすことになったと思います。また、活動を再開したからこそ新しく生じた課題も多くあったかと存じます。育成協議会としても、各子ども会の皆さまの抱える課題に耳を傾け、寄り添いながらお互いに発展していく組織にしていきたいと考えております。

来年度も引き続き、関市子ども会育成協議会ならびに各子ども会の活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます、結びの言葉とさせていただきます。

旭ヶ丘地区 インリーダー研修会に参加して思ったこと

6月に中池公園にて行われたインリーダー研修会に参加したとき、驚きの連続でした。

子どもたちが自主的にレクリエーションを考えていたこと、一人一人が自分たちの経験を元に、次の世代へとつなごうとする姿。とても驚きでした。今の子どもたちを見ていて、自主性やチームワークが足りていないと思うことが多々見受けられていたが、この活動を見て安心しました。

年々、子ども会自体が継続困難になっている地域もあるが、できるだけ継続し次の世代へとつなぐことが重要だと思い知らされました。

少しでも多くの方がこの活動を知り、参加する人が増えてもらえたらうれしく思います。 【柴田 泰行】

倉知地区 縄文土器づくり体験に参加して

10月と12月に開催された縄文土器づくり体験に参加させていただきました。

縄文土器づくり体験では、ジュニアリーダーの方がサポート役として参加していて、緊張しながらも一生懸命役割をこなし、大人よりも近い距離で、にこにこ子どもたちに声をかけてくれた姿が印象的でした。

土器作りは思いのほか難しかったようですが、実際に縄を使って模様をつけたり、大きな焚火で土器を焼く様子にとっても興味を持ち、来年も参加したい!今度はもっと上手に作る!と意気込む姿に、ものづくりを通して歴史を感じることができる、素晴らしい行事だと感じました。

また、今回の体験を通して、参加された他校の子どもたちと交流できたことも、とても良い経験になったと感じています。

今まではコロナ禍で人との距離を取らなければならず、子どもたちの世界も狭まりがちでしたが、初めて会う子とマスクなしで笑いあい打ち解けていく姿に嬉しさを感じつつ、やはり子どもたちには触れ合いが必要なんだと実感しました。

今後も子どもたちの笑顔があふれる活動が続くことを願っています。 【藤吉 章子】

富岡地区 関ジュニアリーダーズクラブ 秋の研修会に参加して

11月に安桜小学校体育館にて関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会が行われました。

ジュニアリーダーが中心となり、参加した小学生と謎解きやレクリエーションを行いました。謎解きは、とても難しい問題でしたが、グループで協力して知恵をしぼり謎が解けた時はみんなとても嬉しそうでした。

レクリエーションは、みんなで走って追いかけてっこをしたり、全員で手をつないで大きな輪を作ったりと色々なことをしました。私たち大人も子どもと一緒に参加させてもらい、楽しい時間を過ごしました。

近年、コロナの影響で人と距離を取り、マスクをしながらの生活が続いてきました。

今回みんながお互いの顔を見ながら笑い合い、お昼ごはんを食べ、皆で手をつなぎ楽しそうに一つのことを成し遂げる姿を見て、交流の大切さを改めて感じました。 【田中 信子】

瀬尻地区 活動を振り返って

関市子ども会育成協議会の活動に、スタッフとして参加させて頂きました。

～インリーダー研修会「野外炊飯」～

大人は見守り、手伝わぬのがルール。ジュニアリーダーを中心に、子どもたちがカレーを作ります。慎重に野菜を切ったり、協力してかまどを組み立てたり、炊き加減を念入りにチェックしたり、子どもたちが率先して活動している姿に感心しました。みんなで作ったカレーの味は、何にも増して格別でした。

～関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会～

初めて会ったお友だちとレクリエーションを行います。最初は緊張気味な子どもたちでしたが、すぐに打ち解け、気付けば仲間となって思いっきり遊んでいました。大人も童心に帰りに一緒に楽しむことができました。子どもたちのパワーと弾ける笑顔が心に残っています。

経験は「宝物」です。今回のような活動の中で、子どもたちは考え、学び、一歩ずつ成長していきます。子どもたちが経験できる場所。そういった場が、子どもたちの身近に、たくさんあって欲しいと願っています。 【竹内 裕子】

金竜地区 6年ぶりのドッジボール大会

コロナの制限が解け、金竜地区ではドッジボール大会を企画しました。過去5年連続で中止したこの大会の復活は、「子どもたちに楽しい経験をさせてあげたい」と想う多くの関係者のご協力により実現に至りました。

そうした大人たちの想いに応えるかのように、参加した児童約180名は、各コートで大熱戦を展開し大会を盛り上げてくれました。勝って大喜びする子、負けて本気で悔しがる子、肩を組んで大声で仲間を応援する子、どの子も生き生きとまぶしく見えました。

遊びを通して地区の仲間や大人との交流が深まる子ども会の活動は、子どもだけでなく、大人にとっても貴重な経験の場となります。今後は、より多くの方に参加してもらい、活動がさらに盛り上がっていくことを切に願います。

最後に、今回こうした活動に参加することで、自分自身の交流の幅を広げられたことを嬉しく思います。関わっていただいた全ての方に、この場を借りて感謝を申し上げます。【安田 陽一】



各地区子ども会役員より



下有知地区 一年を通して

今年度は、コロナウイルスが5類に移行し、子ども会単位での活動が少しずつ増えていると感じました。

今年、下有知小学校は創立150周年を迎えました。そこで「ぎんちゃん広場」という親子で楽しむウォークラリーが開催されました。

「ぎんちゃんタイムトラベル 下有知小学校の歴史や、当時の様子を楽しく学ぼう!」というテーマの行事がありました。コロナ禍だったため昨年より形を変えて行っています。親子で歴史の探索ウォークラリーを行い、いろいろなブースを回りました。

私は、クイズの担当でしたが、親子でクイズを楽しめておりよかったです。他のブースでも子どもたちの楽しんでいる姿や子どもたちの笑顔が見れてよかったです。貴重な経験ができ、うれしく思います。

まだまだ制限されている中ですが、コロナ前のような行事ができるようになり、子どもたちの笑顔いっぱい楽しんでる姿を早く見たいです。これからも子どもたちの成長を見守っていきたく思います。 【八代 麻衣】

南ヶ丘地区 インリーダー研修会に参加して

6月に、中池自然の家にて「インリーダー研修会」が行われました。

私は、2日目の屋外炊事活動のサポートに参加しました。参加児童・ジュニアリーダーが野外炊事(カレーライス作り)を行う際に安全かつ衛生的に進められるように見守りを行いました。ジュニアリーダーたちが作業内容を把握して、常に小学生に優しく指導されている姿を見てとても感心しました。

子どもたちが作ったカレーをみんなで一緒においしくいただきました。片付けでは、どの子どもたちも飯ごうをきれいに磨いている姿が印象に残りました。最後まで真剣に取り組む姿を見て、子どもたちの成長を感じました。

これからもジュニアリーダーと小学生の交流が続くと良いと思います。 【塩屋 知佳】

武芸川地区 おたしる祭りで十六拍子太鼓奉納

毎年8月に、おたしる祭りがあり、十六拍子太鼓奉納演奏をしていましたが、コロナウイルス感染拡大のため何年も中止になっていました。しかし、ウィズコロナが進むなかで、今年からまた開催できるようになりました。

8月の猛暑の中での活動のため、熱中症対策としてテントを用意して、演奏前は待機してもらい、飲み物と塩分チャージも準備しました。演奏の練習は、朝のラジオ体操の後に4日間行いました。当日は心配になるくらいの晴天で、子どもたちも久しぶりの参加でしたが、一生懸命に演奏してとても上手にできたと思います。 【田内 寿弥】

上之保地区 上之保子ども会

今年度の活動から、コロナの影響も薄くなり、以前の活動を再開することができ、子どもたちにもさまざまな体験を提供することができるようになりました。

上之保子ども会では、各単位子ども会で夏休みのラジオ体操を行いました。

夏休み中は、一日のリズムを崩しがちになるため、始まりにラジオ体操を行うことで、規則正しい生活を送り健康的に過ごせるように、また、目標をもってやり抜く力が付けられるようにとの目的で開催しています。ほぼ、毎日参加してくれた子どもには、努力をたたえる副賞として図書カードを配りました。

段々と子どもの人数も減っていき、子ども会としての活動もコロナを契機に変わりつつあると思います。子どもたちがいきいきと成長を続けられるように、活動を通じてサポートしたいと思います。 【藤村 勇太】

田原地区 ハイタッチあいさつ運動

今年度は、コロナ禍以前の行事や活動を少しずつ取り戻しつつあります。ここ数年、交流も少なく、マスクで隠れていた子どもたちの表情にも、いきいきとした笑顔が見られ、うれしく思います。

田原小学校では、高学年の子どもたち、先生方で校門に立ちあいさつ運動をしており、年に2回育成委員も参加しています。

今年度は、「おはようございます!」と声を掛け合いながら、ハイタッチしようという活動となりました。はじめは、私たちもぎこちなくあいさつをするだけでしたが、子どもたちの方からハイタッチをしに来てくれる子がどんどん増え、ワイワイとした楽しい雰囲気のできた活動となりました。高学年の子たちが率先してあいさつし合い、タッチしにいこうと姿があり、田原小を引っ張っていく存在に成長してくれているなと頼もしく感じました。

これからも様々な活動を通して子どもたちが安心して楽しく学校生活を送れるよう、地域全体で見守っていきたくと思います。 【大村 千哲】

